



2018年 7月3日
神島化学工業株式会社
代表取締役社長 池田和夫
(証券コード:4026)

中期経営計画(ローリング)

[2019年4月期~2021年4月期]



100年の歩み、100年の挑戦

中期経営計画（ローリング）	2
1. 計画概要	3
2. 2019年4月期 業績予想	4
3. 業績計画（ローリング後）	5
4. 化成品事業計画	6
5. 窯業系建材事業計画	9
6. 株主還元	12

注意事項

本資料には、神島化学工業の業績に関して、歴史的事実および将来の見通しが含まれています。これらの見通しは将来の業績を完全に見通したものであるとは限らず、将来の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素が含まれており、実際の業績は様々な要素によりこれらの見通しとは異なることがあります。



100年の歩み、100年の挑戦

中期経営計画(ローリング)

・中期的な事業環境認識

国内住宅建材業界は、中期的には、少子高齢化と人口減少により縮小傾向

・中期の経営戦略

(1) 基本方針

成熟産業である「住宅分野」から、現有事業の成長産業である「化成品（マグネシウム）分野」への事業転換、及びアーリーステージの「セラミックス分野」の育成

(2) 基本戦略

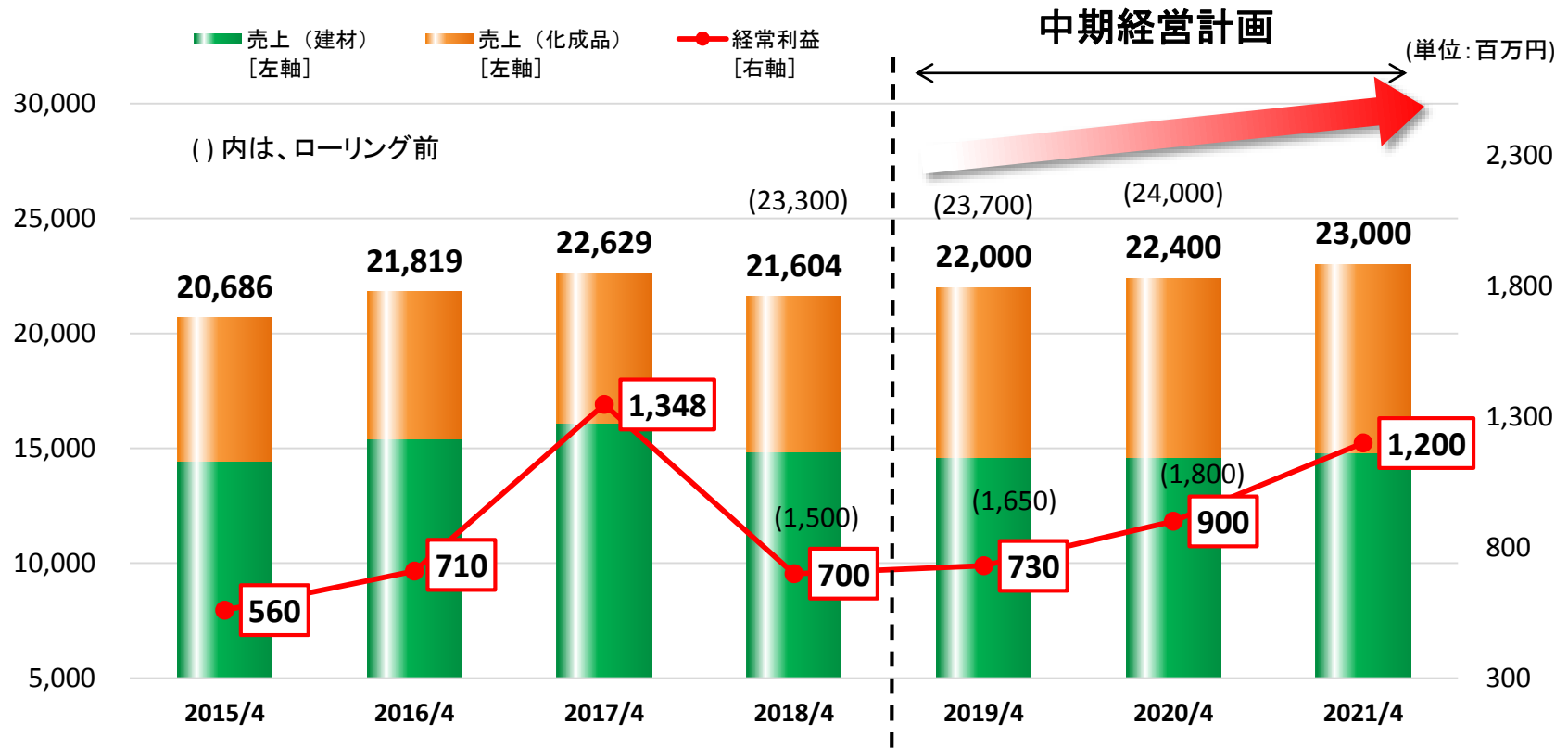
- ①建材事業から化成品事業への業態変換
- ②セラミックス事業の本格的事業化
- ③住宅から非住宅へのエネルギーシフト
- ④住宅分野は、高級化路線

(単位:百万円)

	2018/4期 実績		2019/4期 予想		予想実績比	
		内 上期		内 上期	金額	増減率
売上高	21,604	10,679	22,000	10,900	+395	+1.8%
建材	14,858	7,319	14,600	7,400	△258	△1.7%
化成品	6,746	3,360	7,400	3,500	+653	+9.7%
営業利益	776	535	810	310	+33	+4.4%
経常利益 (経常利益率)	700 (3.2%)	500 (4.7%)	730 (3.3%)	280 (2.6%)	+29 —	+4.2% —
当期純利益	468	221	530	170	+61	+13.1%
減価償却費	995	489	1,067	517	+71	+7.2%
設備投資額	1,219	524	1,780	—	+560	+46.0%
配当(円/株) (配当性向)	24 (46.9%)	14 (57.8%)	20 (34.5%)	10 (53.8%)	△4 —	△16.7% —

- ◇当社建材事業の主要マーケットである住宅市場は、やや弱含みを見込む
- ◇かかる環境下、建材事業の売上高は、非住宅分野で耐火パネルの都市型高層ビル需要を取り込むも、住宅分野が採算性重視の戦略により減収を予想
- ◇他方、化成品事業の売上高は前期の一時的なアジア向けの販売調整がなくなり、更に輸出・新製品拡販による増収を予想
- ◇損益面は、原材料費の上昇や償却費負担増によるコストアップが見込まれるものの、売上高増加、採算性の向上等により増益

3.業績計画(ローリング後)



経常利益率	2.7%	3.3%	6.0%	3.2%	3.3%	4.0%	5.2%
自己資本比率	28.3%	29.1%	33.5%	34.8%	34.5%	36.4%	39.4%
総資産	18,253	18,936	19,217	19,393	20,640	20,790	20,800
純資産	5,159	5,515	6,446	6,757	7,160	7,600	8,260
設備投資額	1,097	1,423	1,646	1,219	1,780	1,100	1,100
研究開発費	549	623	690	689	700	715	720

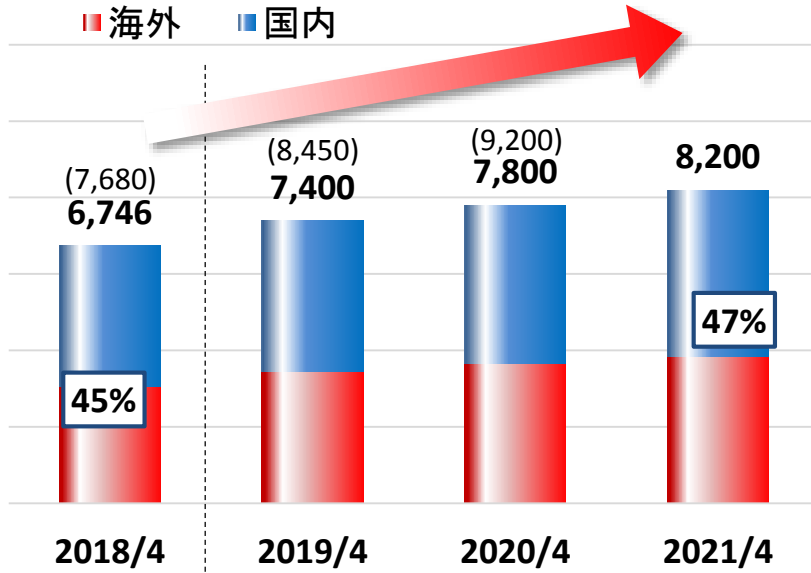
①化成品事業(マグネシウム)は引続き当社の成長エンジン

化成品事業売上

(単位:百万円)

(1) 海外売上高比率

■海外 ■国内



(2) 全体に占める化成品売上高比率

2018/4	2019/4	2020/4	2021/4
31%	34%	35%	36%
(33%)	(36%)	(38%)	

()内は、ローリング前

《 中期計画のローリング 》

- ・当初計画より出遅れているものの、引き続き海外で酸化マグネシウムの拡販に注力
- ・更に、機能性新製品を新規市場へ投入
- ・海外売上高比率も約50%目標に・・・(1)
- ・全体に占める化成品売上高比率は、現状の3割から4割代へ拡大・・・(2)
- ・海外営業体制の更なる強化 (ダイレクトマーケティング・営業人員増員)
- ・将来へ向けての新技术の開発 (研究機関への人員派遣)



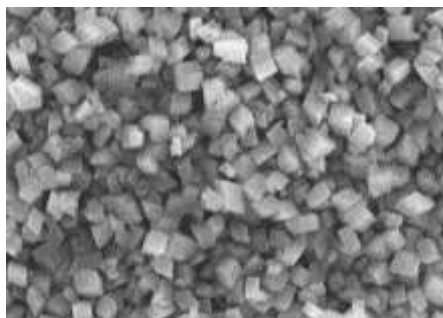
新たな機能性新製品の商品化

電子顕微鏡

使用用途例

〔合成ベーマイト〕

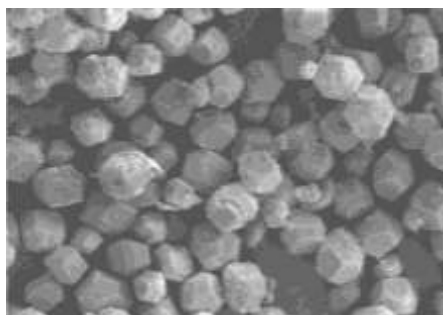
(特徴)
耐酸性、耐アルカリ性



エコ電線、エンプラ部品

〔合成マグネサイト〕

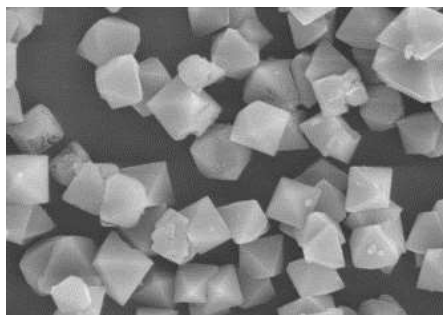
(特徴)
耐熱伝導性



EV車エンプラ部品、放熱シート

〔合成タイチャイト〕

(特徴)
透明性維持



樹脂添加剤、研磨剤

②セラミックス事業は2019年4月期より本格的事業化へ

研究開発段階

事業化への準備

大量生産体制の構築

YAGセラミックス

Yttrium Aluminium Garnet
(イットリウム・アルミニウム・ガーネット)

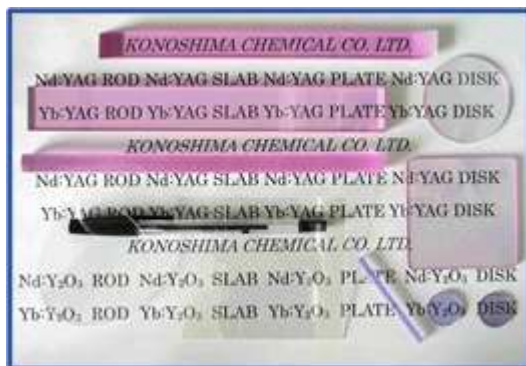
近年大型セラミックス使用の大出力
レーザー開発が活発化。
開発拠点の増加、
高出力化による使用量の拡大

蛍光体

外部からのエネルギーを光に変換
白色LEDをはじめとする照明や
ディスプレイ等に使用

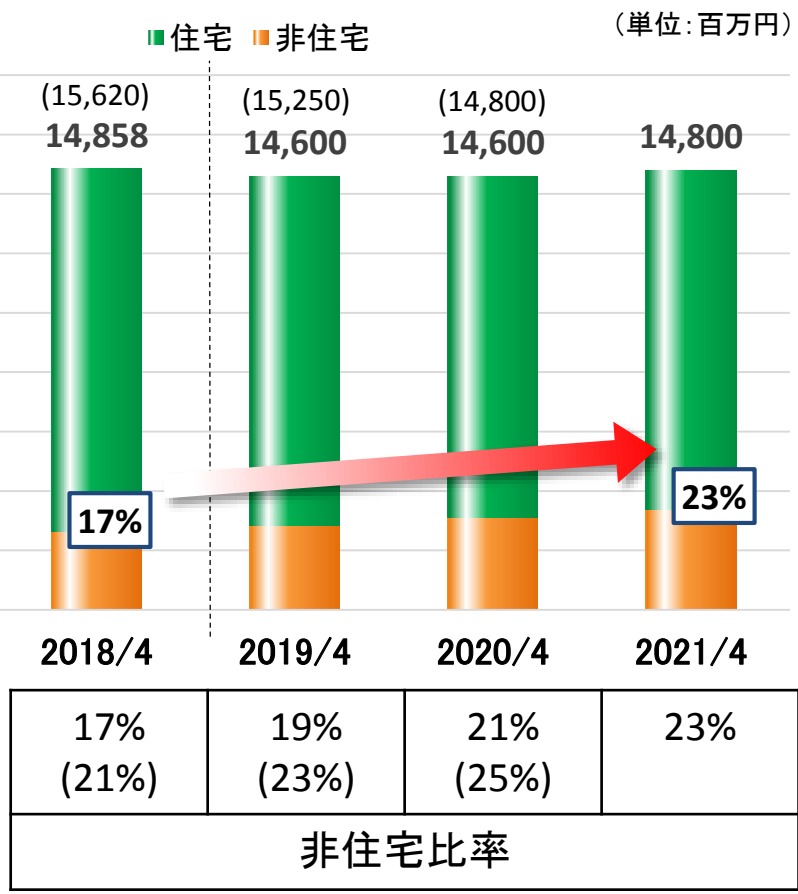
蓄冷材

マイナス269°C(4ケルビン)の
極低温を維持
医療機器MRI等の超電導磁石を
用いる機器に使用



③住宅分野から非住宅分野（公共・商業施設等）へ転換

窯業系建材事業売上



()内は、ローリング前

《 中期計画のローリング 》

- ・ 非住宅比率は当初計画を下回るが、実額ベースでの拡大を企図
- ・ 強みを有する耐火パネルの都市型高層ビル等への更なる本格的取り込み
- ・ ラムダとの技術交流による新製品（遮音板）の拡販
- ・ ケイカル板の非住宅分野への販路拡大



④住宅分野は、採算性重視、高級化路線

- ・ 強みの軒天ボード・破風板は、高級品化（ラフォーレティンバー・ラフォーレグレイス）を更に促進
⇒ 特に好評な高級軒天ボードは、新柄商品も加え、新工法も検討し、更に拡販
- ・ 収益商品であるプライケイカルの拡販へ注力
- ・ 防火サイディングは、採算性を重視した海外輸出に本格的参入



遮音板 重量衝撃音を低減



押出遮音板

重量衝撃音とは・・・

重くかつ柔らかい衝撃で、子供が飛びはねる時などに発生する振動
主として中・低音域の遮断性能に関する音響性能

遮音板を施工することで、LH45※を達成

※JIS A1418 衝撃特性2における性能

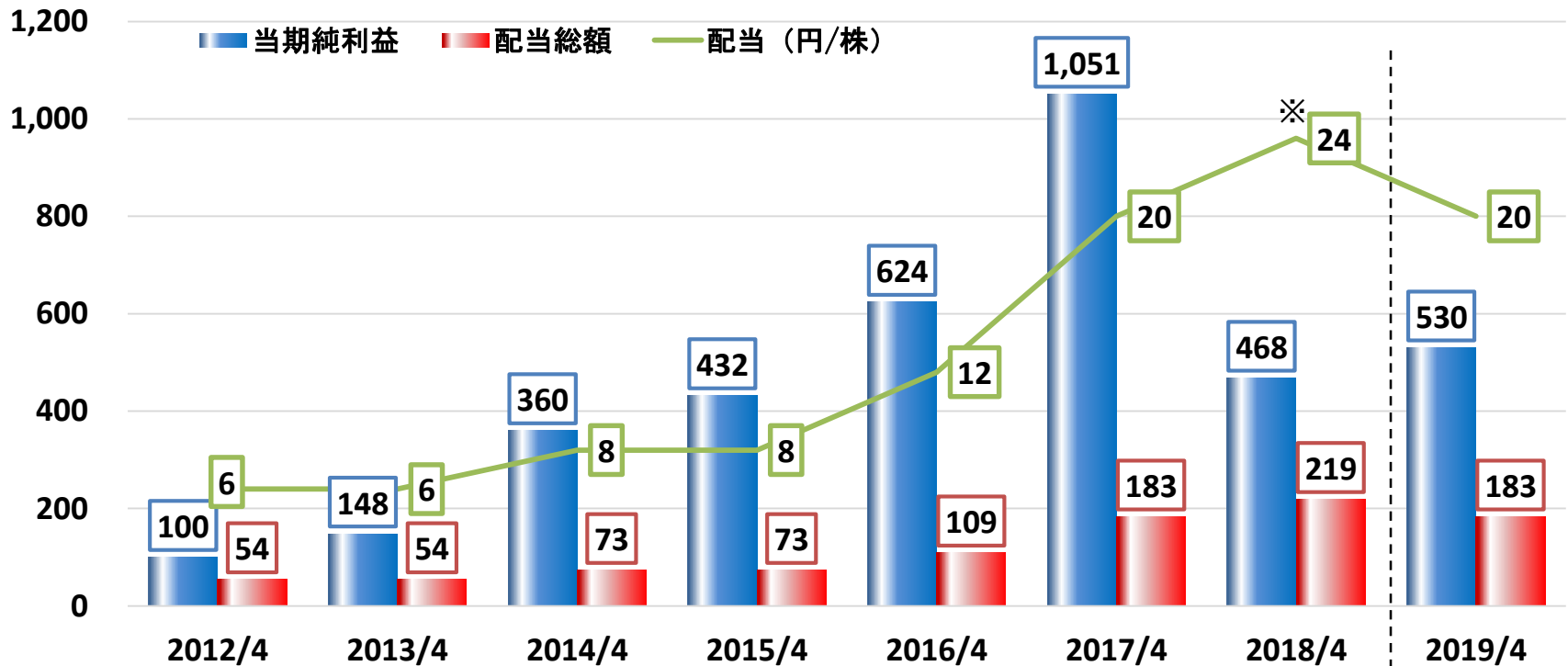
◆ 配当方針

- ・ 利益水準、配当性向及び内部留保の確保等を総合的勘案

◆ 配当予想

- ・ 2019年4月期は、年間配当20円を予想

(単位:百万円)



配当性向	54.9%	37.1%	20.4%	16.9%	17.6%	17.4%	46.9%	34.5%
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

※内4円は、創業100周年記念配当